

三重県遺族会の歩み

還暦を迎えた三重県遺族会

三重県遺族会が三重県遺族互助連盟として誕生してから、はや六十年、還暦を迎えた。戦後、家族を亡くした悲しみと苦しみの中で立ち上がり、共に助け合い支え合った歴史を振り返り、これからの平和の礎としたい。

(注) 年表太字部分は、日本遺族会または靖国神社など全国的な内容としている



食糧を求めて買出しへ



戦災により焦土と化した護国神社



昭和24年、日本遺族通信第1号を発刊

世相メモ 昭和20年

戦中から戦後にかけて、配給制度があったものの、量が少なく滞りがちであったため、町の人々は各自で農村に食糧を求めて買出しに出かけた。極端な物不足により、通貨が価値を失いかけており、物々交換が流行った。



昭和26年、神田共立講堂での第1・2回全国戦没者遺族大会

昭和20年 (1945)

8月15日 終戦

昭和21年 (1946)

2月 戦没者遺族に対する国の処遇すべて打ち切られる

昭和22年 (1947)

4月25日 三重県遺族互助連盟 (三重県遺族会の前身) 発足、各郡市単位に支部も、県の初代会長に青山新七郎氏

昭和23年 (1948)

4月 二代目会長に水谷喜郎氏・事務局を久居に置く

昭和24年 (1949)

7月 靖国神社で全国戦争未亡人の集い・婦人部結成の動き

昭和25年 (1950)

8月 三重県遺族互助連盟の事務所を三重神社 (現在の三重県護国神社) に置く

昭和26年 (1951)

6月 遺族互助連盟を三重県遺族会と改称

昭和20〜29年

戦後まもなく、遺族が立ち上がる

1945〜1954



昭和27年5月、天皇・皇后両陛下のご臨席のもと東京新宿御苑において全国戦没者追悼式が挙行された



第1回全国戦没者遺族大会の三重県参加代表者たち



靖国神社参拝 (川井前会長、淵田会長、近藤理事、事務局長、生駒氏、笹山氏、同行の日赤看護師さん)



昭和27年、待望の1万円年金証書

世相メモ

昭和27年

敗戦によって、昭和21年より戦没者遺族への処遇はすべて打ち切られることとなった。しかし、昭和27年4月、戦没者遺族等援護法が制定され、翌年には恩給法が復活するなど国家補償の途が開かれた。



昭和28年、三重県が戦没者遺児の靖国神社参拝を実施



昭和29年、戦没者遺族の国家補償を要求し靖国神社で遺族代表が断食祈願

昭和27年 (1952)

- 7月 会長に川井嘉蔵氏 (三代目)
- 6月 会長に淵田五郎氏 (四代目)
- 同月 三重県遺族会婦人部結成・初代部長に中野たね氏

◎ 日中戦争・大太平洋戦争における被害

戦没者(軍人・軍属・準軍属)	二四〇万人
外地における邦人死没者	三〇万人
戦災による死没者	五〇万人
合計	三二〇万人